

春野町における民間口承文化財（昔話）の調査・記録・公開による 地域文化の保存と継承

静岡文化芸術大学 文化政策学部 二本松康宏ゼミ

指導教員：教授 二本松康宏

参加学生：3年生 奥理咲子、島津華梨、中澤明音、永田絵美梨

4年生 奥村宗明、小田ありさ ※4年生はサポート参加

1 要約

浜松市天竜区春野町における民間口承文化財（昔話）の採録調査により、地域文化の保存と継承を目指す。地域に伝わる伝説や家庭に語り継がれた昔話は、その土地に生きた人々の心と記憶の遺産である。しかし、近年の加速的な高齢化と過疎化によってそうした民話の伝承は急速に消え去ろうとしている。その記録と保存、公開と継承は地域アイデンティティの再生と文化財保護の観点において緊急の課題である。

二本松ゼミ（伝承文学）では、平成26年度、27年度、28年度にわたって同区水窪町において民間口承文化財の採録調査を実施してきた。29年度は同区龍山町において同じく民間口承文化財の採録調査を実施。これまでの成果は年度ごとに書籍として刊行し、新聞やテレビ、ラジオ等にも紹介されてきた。また学術成果としても日本昔話学会等において高い評価を受けている。

そうした実績を踏まえ、平成30年度からは春野町において同様の採録調査を実施している。本年度は春野町における採録調査の5年目にあたり、同町豊岡地区および宮川地区を対象地域として高齢者らが伝える昔話、伝説、世間話、言い伝え等を採録した。採録した民間口承文化財（昔話）は学術的な位置付けや記録価値を検証し、民間口承文化財としての保存（アーカイブ）を目的として「方言のまま」「語り口のまま」に翻字・記録する。伝承地域の解説などを書き添え、書籍としての公開（刊行）を目指す。

浜松市天竜区春野町

世帯数 1,725 世帯

人口 3,751 人

65歳以上 2,066 人（高齢化率 55.1%）

14歳以下 179 人（4.8%）

（令和4年10月1日現在）



地区	自治会	世帯数		人口	65歳以上	14歳以下
		自治会登録	住民基本台帳			
宮川	河内	32	239	552	279 (50.5%)	33 (6.0%)
	高瀬	33				
	久保田	48				
	里原	49				
	平木	64				
豊岡	山路	9	164	339	208 (61.4%)	17 (5.0%)
	赤岡	28				
	篠原	24				
	野尻	27				
	植田	45				
	勝坂	10				

2 研究の目的

(1) 昔話の調査と研究の現状

日本各地の山間地域では極端な高齢化と過疎化が進み、かつてのように昔話を語り伝える人々は急激に減少している。それは地域におけるコミュニティとアイデンティティの危機でもある。1970年代から1990年代前半にかけては昔話研究懇話会（日本昔話学会）や日本口承文芸学会を拠点として、多くの大学のゼミや研究会によって組織的かつ本格的な昔話の採録調査が展開され、調査報告書の公刊が相次いだ。しかし2000年頃からは、そうした調査がきわめて困難になったといわれる。

背景1. 「お年寄り」の減少 → 高齢者は増えたが、戦後の高度経済成長を支えて働いてきた人たちは昔ながらの昔話を語るような「おじいちゃん」「おばあちゃん」ではなくなった。

背景2. 少子化の影響 → 山間地域では極端な少子化が進み、孫と同居する高齢者が減ったため、高齢者は自分が幼少期に聴いた昔話を孫に語る機会がなくなった。現役の語り手ではなくなった。

(2) 春野町におけるこれまでの取り組み

昭和60年（1985）には旧春野町教育委員会により『ふるさと春野の伝説』が刊行されている。しかし、同書に掲載された27話はすべて再創作（再話）と標準語化が施されている。口承文化財の記録としての価値・評価は限定的と言わざるを得ない。

3 研究の内容

(1) 調査の方法

- ① 令和4年5月から令和5年1月にかけて浜松市天竜区春野町豊岡地区と宮川地区において民間口承文化財（昔話）の採録調査を実施した。
- ② 調査は二本松康宏が監修し、ゼミに所属する3年生4名が採録にあたった。
- ③ 浜松市春野協働センターと地域の各自治会にご協力をいただいた。
- ④ 採録した話は「方言のまま」「語りのまま」に翻字・記録する。
- ⑤ 採録調査にあたった学生が伝承地域の解説を執筆する。
- ⑥ 民間口承文化財（昔話）を「地域と家庭に受け継がれた心と記憶の遺産」と位置付け、その記録・公開、保存・継承を目指して、書籍として刊行する。

(2) 調査の記録

	4月6日（水）	現地研修
	4月22日（金）	自治会総会
1	5月21日（土）	山路、勝坂
2	5月28日（土）	篠原、植田
3	6月4日（土）	個別訪問
4	6月11日（土）	赤岡、野尻
5	6月18日（土）	個別訪問
6	6月25日（土）	河内、高瀬
7	7月2日（土）	個別訪問
8	7月9日（土）	久保田、里原
9	7月16日（土）	平木、個別訪問
10	7月23日（土）	個別訪問

	9月14日（水）	春野図書館 文献調査
	9月15日（木）	春野図書館 文献調査
	9月17日（土）	春野図書館 文献調査
11	10月22日（土）	補足調査
12	10月29日（土）	補足調査
13	11月12日（土）	補足調査
14	11月26日（土）	補足調査
15	12月3日（日）	補足調査
16	12月17日（木）	補足調査
17	1月8日（日）	補足調査
18	1月13日（金）	補足調査

(3) 採録調査の様子



(4) 採録の成果

話者カードへの登録	52名
採録話数	昔話 95話
	伝説 58話
	世間話 40話
	言い伝え 49話
計	242話



【参考】民間口承文芸（民話）の分類

伝説	時代や場所を特定し、その土地では歴史的事実のように信じられている。伝説をよく知る人は、その地域で「古老」「ものしり」として知られているため、採録調査は比較的容易。
昔話	時代と場所を特定しない（むかしむかし、あるところに）。家庭内で「子どものおとぎ話」として語り継がれてきたため、他人の前で話すのは恥ずかしいこととされがちで表に出にくい。
世間話	自分自身や近親者、知人などを取り巻く地域やコミュニティのなかで、「体験談」や「噂」として語り伝えられる。近年の「都市伝説」や「学校の怪談」もこの範囲に含まれる。
言い伝え	習慣や習俗、謂れなど。ストーリーを持たない。

(5) 「語りのまま」「方言のまま」— 民間口承文化財

近年では「語り部」として小学校や図書館などで昔話を語り聞かせる活動が広まっている。しかし、そうした活動では子どもにもわかりやすく標準語化され、あるいは再創作（再話）された話が大半を占めている。昔話や伝説は地域と家庭に伝えられた文化遺産である。標準語化や再創作は、いわば文化財の改竄に等しい。未来に伝えなければならないのは「語りのまま」「方言のまま」の地域の文化遺産である。

(6) 書籍としての刊行

採録した昔話や伝説の記録・公開、保存・継承を目指して書籍化



【参考】図書館への配架状況		静岡県内の公立図書館	国内の大学図書館
水窪のむかしばなし	2014年度	19館	9館
みさくぼの民話	2015年度	33館	13館
みさくぼの伝説と昔話	2016年度	32館	12館
たつやまの民話	2017年度	26館	11館
春野のむかしばなし	2018年度	33館	8館
春野の昔話と伝説	2019年度	30館	10館
北遠の災害伝承	2020年度	15館	8館
春野の山のふしぎな話	2021年度	29館	5館

新刊 **春野の民話** 編著 奥理咲子・島津華梨・中澤明音・永田絵美梨 監修：二本松康宏
 発行元 三弥井書店 発行予定日 2022年3月 A5版並製160頁 定価 1,000円(税別)

4 研究の成果

(1) 当初の計画

春野町杉・川上地区において採録調査を実施。採録した昔話は「方言のまま」「語り口調のまま」に翻字・記録する。伝承地域の解説を書き添え、書籍として刊行する。

(2) 実際の内容

A(予定どおり)

(3) 実績・成果と課題

令和4年度の成果としてこれまでと同様に書籍を刊行する。

(4) 今後の改善点や対策

次年度は春野町気田地区での採録調査を予定している。

5 課題提出者・地域への提言

春野町における民間口承文化財(昔話や伝説)は語り手たちの高齢化と急速な過疎化によって、いまや風前の灯火というべき状況にある。本来、昔話は世代を超えた地域文化の継承のためのコミュニケーション・ツールである。地域に伝承された伝説だけでなく、家庭に語り継がれた昔話もあわせて、地域文化として継承して欲しい。たとえば、我々が刊行する書籍を春野町内の気田小学校や犬居小学校、春野中学校での地域学習に取り入れ、地域文化を学ぶための教材として活用していただけるとありがたい。

6 課題提出者・地域からの評価

平成30年度から始まった春野地区の民間口承採録調査も5年目を迎え、春野地区での調査もいよいよゴールが見えてきている状況だと思います。今回は私が暮らしている自治会も調査対象になった事もあり、昨年度以上に調査に同行させていただき、これまで知らなかった多くの昔話を聞くことができ貴重な体験となりました。学生の皆さんが、高齢者の方々が話す言葉を根気強く聞き取り、丁寧に拾い上げていく様子を拝見し、今回の研究成果も素晴らしい内容になる事を確信するとともに、民間口承文化財保護の意義を再認識させていただきました。調査にあられた学生の皆さんに心より感謝を申し上げます。

浜松市春野協働センター 副所長 尾畑 佳志 様

5月21日の山路自治会を皮切りに始まった春野町豊岡・宮川地区の民間口承採録調査。コロナ禍のため、お互いの表情が十分に読み取れないマスク姿のままで行わざるを得なかった調査活動は、とても大変だったことと思います。消えてしまう可能性がある昔話などの伝承を拾い上げ、文章で記録されたことは地域文化の継承に大きな意義があります。次は私たちが地域でこの成果をどのように活用していくのかが問われることとなりますが、まずは今回の採録調査を見事に成し遂げた学生の皆さんに心より感謝を申し上げます。

浜松市春野協働センター 生涯学習グループ 花嶋 徳光 様